

第2回目黒区スポーツ推進計画改定懇話会 会議録

名 称	第2回目黒区スポーツ推進計画改定懇話会
日 時	令和 6 年 11 月 29 日 (金) 18:30 ~ 20:30
会 場	目黒区総合庁舎地下1階15・16会議室
出席者	委 員：木村座長、関根委員、坂田委員、小根澤委員、上野委員、沖山委員、白石委員、村尾委員、工藤委員 区側・事務局：文化・スポーツ部長、スポーツ振興課長、ほか4名（委託事業者含む）
欠席者	委 員：北川委員、島崎委員、野口委員
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 配布資料の確認 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査結果報告について <ol style="list-style-type: none"> ①対象者別ヒアリング実施結果について ②現状・課題分析（強み・弱み）について (2) 計画改定骨子案検討について <ol style="list-style-type: none"> ①基本理念案について ②基本目標案について ③スポーツの範囲について（する・みる・ささえる等、eスポーツなど） (3) 区民アンケートについて 4 その他 5 閉会
配布資料	資料1 対象者別ヒアリング実施結果 資料2 現状・課題分析（強み・弱み） 資料3 計画改定骨子案の検討素材（基本理念・基本目標案・スポーツの範囲） 資料4 区民アンケート概要 資料5 意見一覧 参考1 東京都スポーツ振興審議会（第29期第5回） 「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」骨子案について 参考2 懇話会意見整理表 差替資料1 現目黒区スポーツ推進計画の評価・検証について（まとめ、基本施策2） 差替資料2 目黒区のスポーツに関する現況（P1）
内 容 (※)	1 開会 [委員]（前回欠席の坂田委員の自己紹介） [スポーツ振興課長] 委員変更のご連絡（公募区民委員の高橋委員区外転出）。 本日は9名の委員が出席のため有効開催となる。
	2 配布資料の確認 [庶務] 配付資料の確認。
	3 議題 (1) 調査結果報告について <ol style="list-style-type: none"> ①対象者別ヒアリング実施結果について ②現状・課題分析（強み・弱み）について [スポーツ振興課長] 資料1・2により説明。 [委員]

議題1について、資料2の3ページ目にスポーツを実施していない層、無関心層が減っていないという話があったが、無関心層とは、スポーツを実施していないが興味がある人か、スポーツを実施しておらず興味がない人か、どちらのことか。今後の方向性としてどちらを念頭に置くのかを確認したい。

[スポーツ振興課長]

興味がない層を想定しているが、興味があるができない層へのスポーツの機会提供も課題と考えている。興味がない方には、スポーツと意識せずに体を動かす機会の提供を見ることは好きという層へは機会提供を通じてする方へ促す等も考えている。

[座長]

「無関心層」はやや混乱を招く表現なので使わない方が良いかもしれない。やらない人として、無関心だからやっていない人、やりたくてもやれていないという2グループがあり、それが減っていないという理解でよいのではないか。

質問だがヒアリング結果と現状・課題分析は資料3に生かされていると考えてよいか。

[スポーツ振興課長]

その方針で検討をしているが、細かい精査まではできていないため必要に応じご意見伺いたい。

[委員]

資料2の2ページ、人材・団体運営について、総合型地域スポーツクラブは1団体のみで、区内全5地域には展開しない、目的は達成しないとの記載について、人を育てるのは大事な仕事と思うが、ここまでの事業展開と、障壁等について考えを伺いたい。

[スポーツ振興課長]

地域に定着した組織に成長した総合型地域スポーツクラブ「スポルテ目黒」以外は、活動場所の確保の難しさなどから、立ち上げに限界があったときく。

上野委員が詳細事情をご存じであれば伺いたい。

[委員]

区民センターで立ち上げが検討されたが断ち切れており、原因は定かではないが、施設側が自体育館ではできないという判断をしたのではないか。場所探しは困難で、自分たちも隙間を探すところから始めていた経緯はあり、それをお伝え出来なかったのは残念である。他県では学校の体育館を使用する例もあり、場所はスポーツ施設に限らないが、区の判断によるものか、計画的に難しかったかなどではないか。

[委員]

場所確保の苦労はよく分かるが、人材育成は非常に大事であるため、その経緯から学ぶことを計画に反映することが必要ではないか。

[座長]

これまでも、指定管理者の課題として「総合型地域スポーツクラブへの理解と支援」を入れているが、動きが悪い。全国的には、部活動についてスポーツ庁の呼び方も地域移行から地域展開という言い方に変わり、来年度の国の予算は3倍程度、20億台から60億台ぐらいで取り組もうとしており、東京都や中野区なども手を挙げている。目黒区も推進できると良いだろう。

[委員]

指定管理者は施設の管理を勝ち取る立場であり、新しい人を育てたら自分たちの競争相手となるため、指定管理者に育てさせるのは違うのではないか。違うところから組織をつくるなどするべきではないか。

3 議題

(2) 計画改定骨子案検討について

①基本理念案について

②基本目標案について

③スポーツの範囲について（する・みる・ささえる等、eスポーツなど）

[スポーツ振興課長] 資料3により説明。

[委員] 坂田委員よりeスポーツについての説明。

[座長]

現行の基本理念はよくできており、古さは感じない印象である。

[スポーツ振興課長]

いただいたご意見を意見一覧としてまとめているが、補足等あればお願いしたい。

[座長]

基本理念案について、ウェルビーイングという言葉は一般的か気になったがどうか。

[委員]

使っており問題ない。

[委員]

分かる人と分からない人がいると思われるため解説を入れるのが良いのではないか。

[座長]

ヘルス、ウェルネス、ウェルビーイングといった言葉の変遷があるが、区民が理解しやすいよう脚注をつけるのが良いだろう。

[委員]

1案の「スポーツに親しむ」という言葉について、ある程度慣れた後に親しむイメージが強いため、「スポーツを楽しむ」などとした方がより入口として良いように感じる。

また、基本目標の1にも「スポーツに親しむ機会」と、同じ言葉があり上位の概念と被っている。施策として「つながる」という言葉もあり、「親しむ」、「つながり」、があるが、「笑顔」がないようなのでやや気になった。

[スポーツ振興課長]

健康でないとなかなか笑顔はできないという意味で、「健康」ではなく「笑顔」という言葉を使った。施策1、2、3のそれぞれの「親しむ」、「健康」、「つながり」の要素を凝縮して理念の中に入れた形である。ウェルビーイングについても、「笑顔」に含んだ形である。

[座長]

「親しむ」という言葉は、区の基本計画、政策の7「スポーツに親しむ」との整合性かと思うが、「親しむ」よりは「楽しむ」のほうが分かりやすいという意見に賛同する。

[委員]

「健康」という言葉について、心身健康、病気でないというイメージがある。闘病中や、持病を抱えながら生活している方、医療的ケアを必要とするお子さんが、自分は当てはまらないという印象にならないよう、「健康」ではなく「笑顔」という表現が適しているように感じる。

[座長]

歴史的に見ると、医療分野とスポーツ分野の言葉の使い方は様々な議論があったが、「健康」という言葉が違ふと感じる場合もあるだろう。

[委員]

案1の「誰もが」という言葉は、「共生、インクルーシブ」を強調し一歩前進した方向性を示している印象で良いと感じる。

サブタイトルはやや長く感じ、「誰もがスポーツに親しむ」を含め3つの言葉が「まち」にかかり、文法的にやや複雑な印象があるので調整いただけると良いのではないか。

[座長]

1案、2案にも共通している「誰もが」「笑顔」「つながる」は、提案者の譲れないところで、委員の方々もそれについては賛同ということで、あとは日本語としていかに美しく、インパクトのあるサブタイトルにするかをご調整いただけると良いだろう。

[委員]

2案の「ひろがる」は独自性かと思うが、どういう意味で使われているか。

[スポーツ振興課長]

いわゆる無関心層等、できるだけスポーツに親しむ方々のパイを広げていく、それがまち全体に広がっていくというイメージを表している。

[委員]

無関心層を意識したメッセージは良いが、「誰もがひろがる」という言い回しはやや気になる。

[座長]

1案のサブタイトルの長さ、また「親しむ」という表現が気になるという指摘を踏ま

え、「親しむ」をカットし短くして整合性を取るなどでも良いかと感じる。

現行計画を見ると、「ひと」「まち」と、個々の人もまちも含んでいる点は個人的には好きな部分である。

8ページの基本目標について、施策1、2、3に再編する点は良いが、右の具体的な事業案の表現の抽象度がそろっていない。「健康・体力づくり相談事業」や「一般公開や教室・講演会等の充実」といった個別の事業名のようなレベルから、「運動の場の充実」といった抽象レベルまでであるため、基本目標としてはそろえた方が良い。「場」が何を指すのかもわかりづらい。

[スポーツ振興課長]

施策1、2、3の左側をこの形に組み込むという方針を御了承いただければ、右側の項目名については、今後、レベル感の統一、eスポーツ政策やDX活用の位置づけなど整理していきたい。

[座長]

eスポーツはスポーツの機会として、「する・みる・ささえる」に係り、DXは、アクセス改善・つながるためのメディアとして使うという位置づけで施策3に入るか。

[スポーツ振興課長]

意見一覧の5番がそのご指摘で、eスポーツは施策1のスポーツに親しむ機会の提供に、またDX活用は施策3のスポーツを通じたつながりの創出の柱の中に含むのが適当ではないかという御意見をいただき、そのとおりとの認識である。右側の具体の施策の柱立ては、次のタイミングでもう少し整理していきたい。

[座長]

事務局のほうで、右下に5つ検討事項と書いてあるがどうか。

[委員]

先ほど話の出たDXについて、1に入れるという話も出ていたが、多くの項目に係るものとなるため、方針としてどこかに入れるとしても、各項目の部分に細かく文言で説明を入れておくのが良いのではないか。無関心層に興味を持ってもらうため、つながり創出やアクセス改善のため、高齢者施設で気軽にみんなで楽しむ健康づくりツールとしてテレビゲーム導入のためなどがあるのではないか。

[座長]

10ページのスポーツの範囲や定義についてはいかがか。

[委員]

資料の10ページには国、東京都、目黒区の定義がそれぞれ書いてあるが、今回改定する目黒区の推進計画の中にはこの3つ全てを記載するのか。

また、目黒区の定義を検討するに当たり、国や東京都の定義の枠組みを超えない範囲とするのか、国と東京がカバーし切れていないプラスアルファの部分や全く別の方向性を考えるのかどちらか。

[スポーツ振興課長]

目黒区のスポーツ推進計画の改定計画に、国や東京都の定義をそのまま入れることは考えていない。上位計画としての情報を載せる可能性はあるが、現行計画でも目黒区の情報メインになっている。

また、10ページの下に現行の目黒区のスポーツの定義があるが、これをどう修正していくかを議論いただきたい。上位計画である国・東京都の計画の流れは押さえながら進めるが、1回目に座長から目黒区らしさを何らか出していければというご意見もいただいた。国・東京都の考え方の外側に付加するか、中身で何か工夫を加えるかは懇話会でのご意見を伺って考えていきたい。

[座長]

法律的な点からは、最上位は2011年に作られたスポーツ基本法があり、その中では、自治体は国の計画や基本法を「参酌して」、つまり、完全に同じではなくて良いが勝手に自由にするわけでもなく、参考にするようにと書いてある。

[委員]

前回の懇話会で、委員から勝敗にこだわらないという点を組み込む旨の意見があり、自身も大変賛同した。東京都は「勝敗や記録を競うものだけでなく」という表現があり、国は「心身の健全な発達」という競い合いが目的ではない表現が感じられるが、目黒区

は、「競技としてのスポーツとともに」と、競技（勝敗）がメインに来ている印象を受けた。

例えば、「勝敗や記録を競うものだけでなく、自立心や受容性等を育む人格形成を目的とした運動競技とともに」など、勝敗や競技とただけではないという部分を表現するところを入れていただきたい。

〔座長〕

現在は、最初に競技スポーツという狭い範囲を先に言って、それから広げた表現の定義になっているが、最初から大きな定義にして、一番外側から見せていく方が良いかと感じた。

〔委員〕

今の意見に非常に賛成である。また「健康づくりのためのウォーキングや体操、自然に親しむハイキング、介護予防やリハビリテーション」という表現について、具体例を書きすぎるとそれ以外を除外してしまうおそれがあり、「介護予防」「リハビリテーション」という医療系の言葉を使う点も気にかかる。先ほど出た「楽しみ」などを目的とした身体活動などの表現が適しているのではないか。

〔座長〕

前回、そういった分野に特に関わりのある委員がいたかと推測するが、具体的に書き過ぎてしまうと、医療と体育の境目みたいな問題も出てくるため、東京都の表現が適当ではないか。国は堅過ぎる印象である。

坂田委員に質問だが、東京都の表現で身体活動の後に「相応のエネルギー消費を伴うもの」とあるが、運動の強度の大小の表現は必要か。eスポーツ、パラスポーツのボッチャ、オリンピック種目のエアライフルなどを見ると、運動の大きさ、身体活動の激しさは、従来の伝統的なスポーツのイメージでなくて良いと感じているがどうか。

〔委員〕

スポーツの定義は広範であり、ダンス、ヨガ、ダーツ、ビリヤード、さらにはアジア大会で行われるセパタクロウやカバディ、マインドスポーツ等も含まれる。消費エネルギーに関わらず、定義に制限を設けることは、スポーツの概念自体を狭めるリスクがあると考えられる。

〔座長〕

日本スポーツ協会での議論では、マインドスポーツという分類をしているが、チェス、囲碁、将棋などがアジア大会で正式種目としてスポーツとしてみなされており、消費エネルギーは関係ないのではないか。消費エネルギーの表現を除けば、東京都のものが良いのではないか。

〔委員〕

スポーツ、レクリエーションなもの、楽しさを持ったゲームなどを広げていく上ではスポーツの定義を広く捉えることが大事と感じる。

〔座長〕

今のような御意見と、先ほど出た、冒頭に競技スポーツという言葉を持ってこないという点を踏まえ調整いただくことでよいか。

〔スポーツ振興課長〕

今の皆様のご意見に関連して、10ページの都の考え方に加え、17ページの基本的考え方の1行目に競技スポーツはもちろんという部分がある。楽しみやレクリエーションとして幅広い身体活動で、競技スポーツも含めてその強度は問わない、など、順番を変えて表現するという方法もあるかと思う。

また、レクリエーションという言葉の使い方について事前にご意見いただいているがこの点について何かあれば伺いたい。

〔委員〕

レクリエーションを大学で学んでおりこだわりがあるのだが、「楽しみやレクリエーション」という表現からは、レクリエーションは楽しみじゃないという印象を受ける。レクリエーション活動の中にスポーツ、食事も含まれ、自由時間活動全てを指しているのも、もし言葉を使うのであれば川崎市などと同様、「レクリエーション活動」としてほしい。

スポルテでもモットーに「スポーツ・レクリエーション・文化活動」と入れている。今記載している表現だと、レクリエーションの定義がいまいちわからないので、それなら入

れない方がよいのではないかと感じた。

〔座長〕

26ページの川崎市の例には「レクリエーション活動」とある。また、曖昧であれば、使わずにほかの言葉でしっかりと表現し、誤解を招くような使い方はしないほうがいいと思う。

事務局では、ここでの御意見を参考にしてもう一度再検討していただきたい。

3 議題

(3) 区民アンケートについて

〔スポーツ振興課長〕 資料4により説明。

〔委員〕

このアンケートには、先ほど議題に上がったスポーツの定義や範囲を、どこかに記載する予定はあるか。

〔スポーツ振興課長〕

回答の選択肢の中に競技種目を幅広く入れる形で、できるだけスポーツに携わっている方々を広く把握できるようにしたいと考えている。

〔委員〕

今スポーツの定義について議論して、スポーツと運動の境目がだんだん曖昧になっているなという気がするが、アンケート回答者も迷うのではないと思う。

〔スポーツ振興課長〕

8番の選択肢を具体的に書いていないので、分かりにくい形になり申し訳ない。この選択肢は、かなり要素を増やすよう考えている。

〔座長〕

基本的には、都の調査の項目を参考に、そこに合わせていくという理解でよいか。

〔スポーツ振興課長〕

そのとおりである。

〔座長〕

スポーツ実施率について、国・都・目黒を比較した線グラフがあるが、そもそも範囲が違っていたものを比較する意味も、目黒が都よりも低いと言う必要もない。調査の仕方によって違う結果が出るので、都に合わせたら目黒のほうが高く出る可能性もある。

〔委員〕

こうして定義を作り変えるときは慎重になる必要がある。国の経年変化のグラフで大きく上がっている箇所があるが、そこは測定方法を変えたタイミングである。政策評価するときには、定義の変更も踏まえ、慎重に動向の変化を評価できるようにしておくことが重要である。

〔スポーツ振興課長〕

良いご指摘に感謝する。今回の調査は無作為抽出でなく、アンケートのポスター等を目にした方が回答する調査のため、おのずと回答者の多くがスポーツに関心を持つ方が多くなり、スポーツ実施率等が区民の平均的傾向と乖離してしまう可能性があるという指摘が区の検討部会内でも出ていた。このため回答者の傾向＝区民全体の傾向と見ることはできないが、スポーツに興味がある方々とそうではない方がそれぞれほかの項目でどういう選択をしているかクロス分析をしていけば何らかの傾向を把握できるのではないかと考えている。

また、定期的に行う世論調査は無作為抽出のため、推移についてはそこで把握をしていきたいと考えている。世論調査は、実施したばかりのため、次回調査での把握となるが、その頃には現在検討いただいている計画が出来上がっているため、計画で整理した定義等を選択肢の中に反映させて結果を把握することを考えている。

また、障害者手帳の選択肢を細かく設けてはという御意見について、庁内で検討したが、対象人数が少なく選択肢を細かくすることで個人が特定できてしまうリスクがあることから、今回は控えることとした。

また、細かい点で恐縮だが、先ほどのスポーツと運動が混在しているという指摘に関して、設問の6、7、8は「スポーツ」、9、10で「スポーツ・運動」となっているため、全部スポーツに統一する形の方がよいか。

〔一同〕

問題ない。

〔委員〕

それであれば、スポーツの定義をアンケートの前に書いたほうが良いのではないか。

〔スポーツ振興課長〕

確かにそうであるため、先ほど10ページにあった東京都の定義、現行の計画の定義、17ページが一番上の表現の「楽しみやレクリエーション活動」、川崎市の表現を踏まえて、スポーツの定義を冒頭に入れる等検討する。また、eスポーツに関して、こちらが考えるものと回答者の認識が合うよう、分かりやすい表現を調整したい。

坂田委員に伺いたい、アンケートの3ページの設問21の選択肢の書き方は適切か。eスポーツの定義として、19と20の設問のところに「スポーツ競技をコンピューターゲーム化したバーチャルスポーツ」という表現としているが、より良い表現があればご助言賜りたい。

〔委員〕

バーチャルスポーツということすら知らない方たちがいると思われるため、丁寧に説明した方が良好だろう。

〔スポーツ振興課長〕

具体的には、先ほど御説明いただいたプレゼンの中で、IOCが分類したスポーツの3つのグループなどをお示しする感じか。

〔委員〕

後日ご提案させていただいてもよいか。カタカナが結構多く、若者には答えやすくても多分シニアの方にとっては不親切な部分もあるため、皆さんが分かりやすいよう工夫したい。

〔スポーツ振興課長〕

どうぞよろしく申し上げます。

〔委員〕

区民アンケートの実施頻度はどれぐらいか。年に1回などか。

〔スポーツ振興課長〕

今回初めてである。

〔委員〕

これを取られて新しく推進計画をつくるのであれば、定期的にアンケートを取ったほうが、回答者の行動変容がより分かりやすく見え、分析しやすいかと思う。

〔座長〕

目黒区では、世論調査の中でスポーツについて定期的に数値をとっている。

4 その他

〔文化・スポーツ部長〕

最後のスポーツの範囲の定義について、次回までに事務局から案をお示しする予定だが、アンケートを12月11日からスタートしたく、そこでスポーツの範囲の定義をしないと調査ができないため、私どものほうで案を検討し、皆様にメール等でお知らせして御了承いただいた上でアンケート調査に入らせていただくということでよいか。

〔委員〕

了解。

〔座長〕

あるいは、よろしければ事務局と座長に御一任いただければありがたいと思う。

〔委員〕

了解。

〔文化・スポーツ部長〕

御提案の趣旨を全部入れて何とか文言にまとめたい。

〔庶務〕

次回の懇話会は2月に開催予定。後日、日程調整をお願いします。

5 閉会